

下野市立国分寺西小学校

1 学校課題

確かな言語力をもとに 自分の思いを豊かに表現する子どもの育成
～学び合いのある言語活動の工夫を通して～

(1) 研究主題のとらえ方

本校の学校教育目標や児童の実態から、本年度の学校課題を「確かな言語力をもとに 自分の思いを豊かに表現する子どもの育成～学び合いのある言語活動の工夫を通して～」と設定した。本研究を進める上で指導法研究の主を国語科に置き、文章を正確に読み取り、的確に表現する力の育成を目指している。さらに、他教科の授業や様々な教育活動においても、言語活動を意図的に入れて実践する。また、児童の言語力は個別に育つものでなく、児童同士の交流の中で磨かれ高まるという視点から、学び合いのある学習活動を授業の基本に据える。友達の考えや思いに耳を傾け、互いに理解し合おうとする学習活動から確かな学びと豊かな表現の実現をねらっていく。

まず、言語力の前提となる「語彙力」の育成では、幅広い言語の習得と多様な表現方法や基礎的なスキルが必要である。そこで、国語科の授業の中で、この語彙力や文章の記述力・会話力・読解力を確実に身につけさせていく。そのためには発達段階に十分考慮した指導の工夫改善と充実を図らなければならない。教師は、常に「言語活動の有効性」「言語力の深化」という視点で児童の取組を見守り、適宜指導していく。

本校は小規模校として恵まれた環境にあり、また本校ならではの幾つもの教育活動を通して、児童の中に芽生え、培ってきた豊かで素朴な人間性がある。その感性をさらに育み伸ばし、自分の思いや感動を自らの言葉で生き生きと表現できる児童を目指し、授業研究を進めていきたい。

(2) 研究の具体的内容

①国語科における言語力の育成

- ・ 1 単位時間における指導の工夫（発達段階に応じた、話す・聞く力と書く力の育成）
- ・ 1 単位時間における言語活動の充実（話し合い活動の基本と形態の工夫）

②言語環境の工夫

- ・ 学習環境の整備（発表の型の見直し・作成）
- ・ 朝の放送体験
- ・ 発表の場の設定（体験活動・縦割り活動など）
- ・ 他教科での取り組み

③個に応じた指導の工夫

- ・ 全国学力状況・とちぎっ子テストの分析結果を活かした指導
- ・ 日常の理解度習熟度の分析

2 研究経過

(1) 授業研究の概略

	教科等	研 修 内 容	
①	道徳 3年	6月17日（水）道徳教育研究会	
		講 師	白鷗大学教育学部 講師 中山 和彦先生
		授業研究会	心をこめて 2—（1）礼儀 資料名 「手紙を書くね」（出典：「3年生の道徳」文溪堂）
②	国語 1年	7月3日（金）下野市S&Uコラボ事業研究会	
		指導者	宇都宮大学教育学部 准教授 飯田 和明先生
		授業研究会	単元名「好きなこと なあに」
③	国語 4年	10月30日（金）下野市S&Uコラボ事業研究会	
		指導者	宇都宮大学教育学部 准教授 飯田 和明先生 下野市教育委員会 指導主事 高山靖子先生
		授業研究会	単元名 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」
④	国語 6年	12月9日（水）要請訪問	
		指導者	下野市教育委員会 指導主事 高山靖子先生
		授業研究会	単元名 筆者の考えをとらえ、推薦する本の帯を作ろう 「自然に学ぶ暮らし」

(2) 研究の実際

①第1回研究会

道徳 心をこめて 礼儀 資料名「手紙を書くね」

友達の見解を参考にして自分の考えを深めるため、自分の考えをワークシートに書かせ、全体で話し合う前にペアトークした。



②第2回研究会

国語 単元名 「すきなこと、なかに」

書く力を高めるため、書く内容の型を示し、書く前に話す活動を取り入れたり、書いた後、確かめる観点を示した振り返りカードを用いて、自分と友達で確かめ合ったりした。



③第3回研究会

国語 単元名 読んで考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

テーマをもって読み取り、根拠となる叙述をワークシートにまとめさせ、自分の意見を書くときに参考にできるようにした。意見を書く型を指導し、意見を深めるため、グループで話し合う活動を取り入れた。



④第4回研究会

国語 単元名 筆者の考えをとらえ、推薦する本の帯を作ろう
「自然に学ぶ暮らし」

読む力を高めるため、学習したことを活かし、下学年に紹介する本を平行読みし、本の帯作りをした。段落構成や文末表現を指導し、観点を示したチェックシートを用い、要点を捉えて読み取った内容を友達と確認しあった。



⑤朝の放送体験

毎朝、天候や季節の様子、自分の紹介、一日の予定を放送する体験を全児童が順番に行っている。児童が放送内容を工夫できるようにハンドブックを作成した。



⑥体験活動等での発表の場の設定

全校なかよし体験活動等の縦割りの活動も全体での発表の場だけでなく、班ごとの準備や振り返りの話し合いの場も設定している。



3 研究の成果と課題

【成果】

- ・ 「ペア」や「グループ」での話し合いの際、観点を示したカードやワークシートを用いることにより、児童同士で確かめ合うことがはっきりし、友達への助言もできる効果が見られた。
- ・ 考えを書く「型（構成や文末表現等）」の指導を学年に応じて工夫したので、児童自身がどう書いたらよいか理解し、意欲的に書くことができるようになってきた。また、前時までの学習を振り返りやすいようにワークシートやノートにまとめさせておくことにより、自分の考えを書く時に参考にすることができていた。
- ・ 朝の放送体験では、工夫のポイントをまとめたハンドブックや放送原稿の型を作成したので、児童自身が放送内容を考えやすくなり、聞き手を惹きつける表現を工夫する力が高まってきた。自信を持って放送できるので、話し方も上達している。

【課題】

- ・ 話し合いで友達の見解を聞くことによって自分の考えを深めたり広げたりできるように、話し合いの意味を考え、どう進めたらよいか、さらに研究していきたい。
- ・ 身につけた力をさらに高めるための評価法について工夫したい。